

(様式第2号)

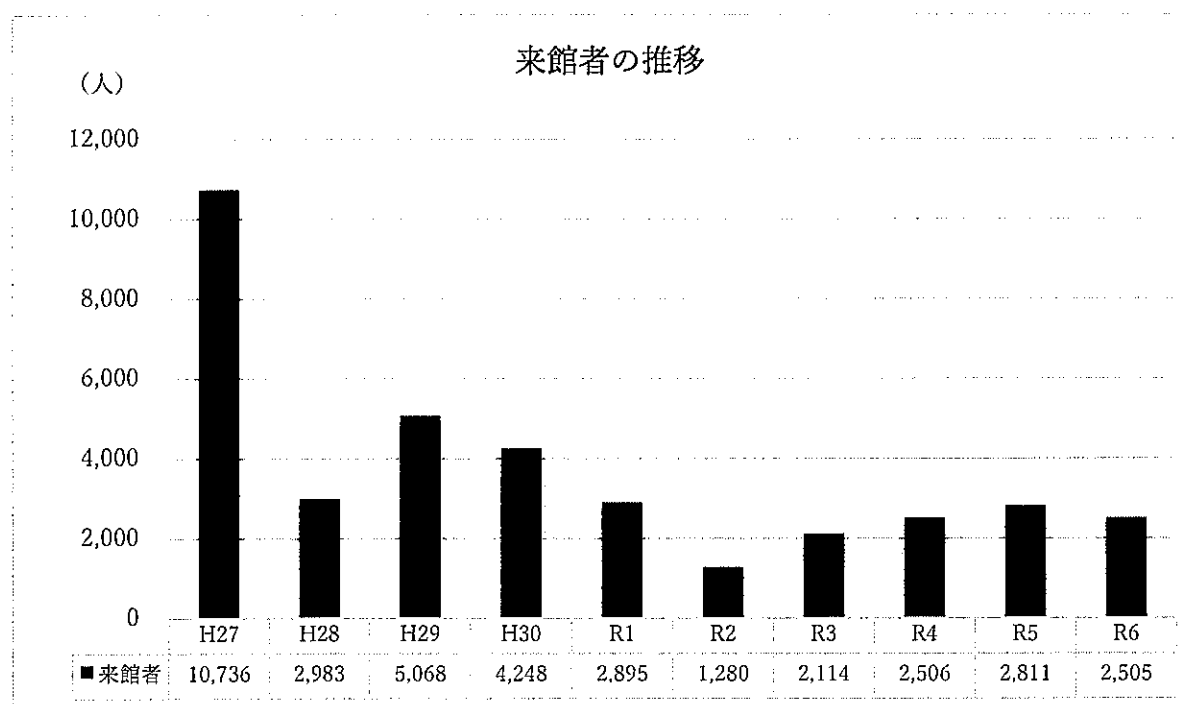
村田清風記念館指定管理者事業計画書

団 体 名	(公財)長門市文化振興財団				
代表者氏名	大谷恒雄	成立年月日	平成11年9月1日		
団体所在地	長門市仙崎10818番地1				
電話番号	26-6001	F A X	26-6002		
E - m a i l	kanri@renaissa-nagato.jp				
運営実績のある 類似施設名	所 在 地	主な業務内容	運営年月		
ルネッサながと	長門市仙崎10818番地1	施設維持管理・運営	開始	平成12年3月	
			終了	年 月	
くじら資料館	長門市通671番地17	施設維持管理・運営	開始	令和3年4月	
			終了	年 月	
金子みすゞ記念館	長門市仙崎1308番地	施設維持管理・運営	開始	令和4年4月	
			終了	年 月	
香月泰男美術館	長門市三隅中226番地	施設維持管理・運営	開始	令和4年4月	
			終了	年 月	
長門市文化会館	長門市油谷新別名10833 番地	施設維持管理・運営	開始	令和7年4月	
			終了	年 月	
事 業 計 画					
【経営方針及び団体の理念について】					
1 指定管理者の指定を申請した理由					
私どもは、地域住民一人一人が文化を享受し、文化を育み、文化を創り出すことができる環境を整えることにより、豊かな伝統文化の継承・発展と新たな地域文化活動の振興を図り、真に豊かさを実感できる地域社会「豊かでうるおいのあるふるさと長門」の形成と進展に寄与することを目的として、平成11年9月に設立された文化振興財団です。その後、23年からは公益法人に移行し、公益の増進という社会的責任を担う立場を明確にして、事業運営を担ってまいりました。 財団設立以来、維持管理・運営を担っておりますルネッサながとは、舞台芸術に特化した特殊な舞台機構を有する施設であり、一方の村田清風記念館は、郷土の先賢・村田清風及び周布政之助の遺品・史料の保存・公開に加え、文化財保護の普及・啓発を図る拠点施設という特徴があります。施設の特色は違いますが、同じ長門市内の文化施設として一体管理することで、相互に影響し合い、より効果的に長門市民をはじめ全国に文化情報を発信し、地域の活性化と魅力ある文化のまちづくりに寄与できるものと考え、指定管理者に応募しました。					

2 施設の現状に対する考え方及び将来展望

来館者は、NHKテレビ番組の影響で突出した平成 27 年度を除き、年平均 3,000～4,000 人で推移していましたが、コロナ禍を経て、平均 2,500 人前後と低迷しています。令和 3 年以降指定管理者として物品販売にも力を入れてきましたが、安定した収入を得られるまでには至っていません。来館者の約 6 割が長門市民であり、子供の来館割合も全体の 1 割程度となっています。現在、収蔵する遺品・史料の本格的な学術調査が始まり、今後さらに価値を増していくことが期待されます。「幕末維新の研究者に対して、より開かれた施設」となり、その成果として「子供たちが郷土に誇りを持てる施設」となるよう、働きかけを強めていきたいと考えています。

また、隣接する国指定史跡「村田清風旧宅」は、記念館と一体となる施設であり、文化財保護の啓発及び普及を進める生の教材ともなっています。この記念館と文化財を一体管理する利点を最大限に活かし、効率的な運営を進めていきます。



【施設の運営について】

1 サービスを向上・利用を促進させるための方策

「地域の幕末維新研究の拠点」「子供達が郷土に誇りを持てる施設」を目標とすべき姿として、以下の数値目標を設定するとともに、次の取り組みを行います。

<数値目標> (令和 8～12 年度)

来場者：4,000 人

満足度：80%以上

<達成方策>

当財団は、「地域社会及び市民の文化の向上及び福祉の増進を図る」という施設の設置目的を、各種事業を通じた文化的体験の提供により果たしていきたいと考えています。この内容の充実が利用者に対する最大のサービス向上策であり、来場促進に向けた最善の取り組みとの認識のもと、次の取り組みを行います。

(1) 利用者視点に立ったサービス向上の取り組み

① 接遇の向上

全職員を対象に毎年接遇研修を行い、来場者を「おもてなし」の心と笑顔でお迎えします。また、館内では定期的な見回りを行い、施設案内等のサービスを提供するなど、常に接客スキルを高めることに努め、顧客満足度の拡大とリピーターの確保につなげていきます。

② わかりやすい案内表示

幅広い年齢層や障害者、外国人にも展示内容を理解してもらえるよう、案内表示やパンフレットの工夫を行います。

③ 施設の有効活用

施設内は、展示室のほか研修室、ロビー、展望室などの空間があります。これら施設を利用して、幕末・維新の関係書籍の閲覧やグッズ販売、文化観光情報等の収集スポットとなるように工夫し、気軽に施設に来場できる環境を整えます。

(2) 利用促進に向けた取組

① 営業活動と顧客開拓

営業の重点目標として、県内・県外からの来場促進と子供利用の拡大に力を入れます。特に、地域学習にまたとない資料を保存している強みを活かし、夏休みの子供向け企画やイベントの開催のほか、関係機関と連携した児童・生徒の来場促進に努めます。施設の認知度がまだまだ低い現状にはありますが、学術研究の成果を待って、県内外へ効果的に情報発信をしていきます。新規顧客開拓のためにも、記念館からの定期的な情報発信は欠かせないものと考えます。ホームページ、ソーシャルメディア等各種ツールを用いた発信や、当財団がこれまで培った情報網を活かし、他施設とも連携した積極的な情報発信に努めます。

② 他施設との一体的、効率的な運営

当財団では、管理するルネッサながとにおいて、旅行業者や市内観光施設と連携した観劇ツアー等の誘致に取り組んでいます。当財団が施設を一括管理する利点を最大限活かし、ルネッサながとへのツアーの中に記念館への見学を組み入れるための働きかけや、記念館とルネッサながとの相互優待券を検討するなど、施設間の連携強化を進め、利用促進につなげていきます。

③ 交流事業の推進

地域の活性化に記念館が積極的に寄与していくためには、より多くの地域の方々が記念館に関わり、交流を進めていくことが必須と考えます。山口県観光連盟や長門市観光コンベンション協会が企画する記念館周辺地域を探訪する「古地図を片手にまちを歩こう。」への協力や、村田清風顕彰会、教育機関との連携を通じて、地域との交流事業を積極的に進めていきます。

④ 収蔵資料のデータベース化と公開

収蔵資料を適切に管理し、資料のデータベースを公開していくことが、利用者サービスの向上につながると考えます。まずは、市や関係機関からの指導に基づき、収蔵資料の整理とリスト化を進めていきます。併せて、研究者に対して開かれた施設となるよう、県内の同様な資料館や研究機関等と連携してネットワークづくりを進め、「村田清風・周布政之助研究」の拠点施設としての機能拡充に努めます。

2 利用者等の要望の把握及び対応方針

来場者にアンケート調査を行い、利用者のニーズの把握や満足度を調査し、定期的な自己評価を実施して業務の質とサービスの向上に努めます。利用者からいただいたご意見やご要望は、当財団からの回答を添えて館内等で公開し、業務の改善につなげます。

3 利用者のトラブルの未然防止と対処方法

事故や不審者・不審物による犯罪の早期発見と未然防止のため、スタッフ全員が防犯・防災への高い意識をもって日常的に施設内外の巡回を実施するとともに、小さな事故や気付きを共有し、その対応についての打ち合わせを行うなど、利用者の安全確保に努めます。また、リスク対応マニュアルを整備して、周知と定期的な訓練に努めます。

4 その他（自主事業、地域との連携、他施設との連携等）

（1）自主事業

施設の設置目的を果たし、より地域に開かれた施設となることを目的に、企画・展示事業、教育普及事業、調査研究及び収集事業の３つの柱からなる事業を企画・実施します。

① 企画・展示事業

これまでの常設展示を活かしながら、映像資料等様々なツールを用いて、村田清風及び周布政之助の業績をわかりやすく紹介していきます。また、「村田清風を取り巻く人々」をテーマに、清風の娘婿や弟、妻など、これまで脚光を浴びてこなかった人物を通じて、清風の新たな人物像に迫る企画展を開催します。

② 教育普及事業

村田清風及び周布政之助の業績や精神を現代に活かす取組として、児童・生徒を対象にした「清風競書大会」や一般を対象にした「古文書講座」、史跡・村田清風旧宅を活用し、歴史の息吹を肌で感じながら、清風の遺風について語り合う場を提供する「清風サロン」事業を継続して実施します。また、清風、政之助の業績をより広く全国に発信し、理解の裾野を拡大するため、ホームページの管理運営、萩・長門地方のラジオやケーブルテレビなど各種媒体、Facebook や Twitter をはじめとするソーシャルメディアなどを通じた積極的な情報発信を行います。

③ 調査研究及び収集事業

現在行われている学術調査の結果を待ちながら、専門家の知見を参考に情報のデータベース化に取り組み、順次公開を進めていきます。また、企画展として開催する「清風を取り巻く人々」に関係する資料の調査研究を進め、情報の整理を行います。関係資料の収集に際しては、有識者や関係機関と連携するとともに、調査報告等を行います。収蔵資料については、後世に伝えるべき大事な市民の財産と認識し、可能な限り良好な状態で次世代に引き継げるよう、最大限配慮します。

（2）地域との連携

施設の利用を活性化していくためにも、より多くの地域の方々が施設に関わり、交流を進めていくことが必須と考えます。これまでの施設運営で培った人的ネットワークや地域の教育機関、公民館、文化団体などと交流し、意見交換を重ね、ともに魅力ある地域づくりができるよう努めます。

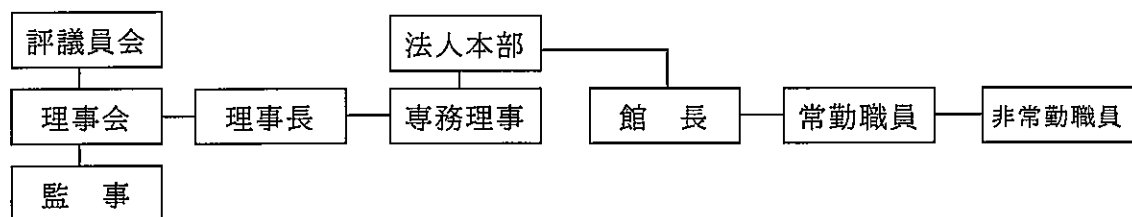
(3) 他施設との連携

当財団は、20 年余りにわたるルネッサながとの維持管理、運営を通じて、観光施設や各種団体との連携強化に努め、観劇ツアーや温泉宿泊プラン、温泉商店街割引チケット、企業プレイガイドなど様々な誘客の取り組みを進めてきた実績があります。この経験をもとに、市内の他の文化施設はもとより、県内の関係機関や各種団体と連携し、利用促進につなげていきます

【施設の管理について】

1 職員の配置（指揮命令系統がわかる組織図を含む）

館長以下 4 名の編成を管理運営の基本体制とし、休館日を除き、月毎のローテーション勤務により運営します。予定外の事象等が発生した場合は、法人事務局と協議し、当財団が管理する他施設からの補充や配置等により対応します。財団管理の利点である意思決定の早さと意思疎通の緊密さを最大限に活かし、適正かつ円滑な管理運営にあたります。当財団就業規程に基づき、土・日・祝日に相当する日数と休館日を休日とし、勤務時間を午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までとします。平常時の勤務は、1 日 2 人体制とし、勤務時間の割り振りを行います。



2 職員の研修計画

安定したサービスを継続して来場者に提供するため、接遇研修や様々な業務に関係する各種研修会への積極的な参加、類似施設への視察等、職員の資質向上に努めます。

3 安心・安全の面からの管理運営に向けた防犯・防災の対応

利用者の快適性と安全性の確保、並びに施設設備の正常な稼働は、施設運営の根本となる部分であり、絶対条件と考えます。利用者にとって安全・安心で快適な施設環境を維持していくため、法令等に基づく各種点検を確実に実施するとともに、スタッフによる日々の点検をすべての基本として、有事に備えます。

4 災害発生時等の緊急時における対応

火災、地震、風水害等の緊急時には、館長を本部長とする危機管理本部を設置し、救護、連絡調整などの担当職員を配置します。また、緊急時に適切な初動対応が行えるよう、施設内に備えられた防災機器について、日常的に確認し、取扱方法を徹底します。

5 個人情報の保護

施設の管理運営上知り得る主な個人情報は、「アンケート回答者の情報」となります。この情報は、サービスに関わる情報提供や案内書等の発送の目的で使用します。個人情報の保護は、施設の管理運営上重要な責務として、厳正な管理が求められます。当財団は、理事長を個人情報保護責任者とする独自の個人情報保護方針を制定して、個人情報の厳正な管理を行っています。今後も、関係法令を遵守して、情報の紛失・漏えい・改ざん等が発生しないよう、適正な管理に努めます。

6 経理処理の方法

施設に会計責任者を置き、当財団財務規程に従い、収支計算、備品の管理及び物品の出納に関する帳簿を作成し、適正に経理を行います。

7 管理経費縮減のための工夫

こまめな冷暖房の管理や消灯の実施、書類の電子化を進め、経費節減、省エネルギー及び環境への配慮に努めます。

【その他 特記すべき事項】

私どもの財団は、平成11年9月に設立され、同12年のルネッサながと開館以来、約25年間、施設の維持管理・運營業務に従事してきました。その間、300万人を超える利用者を受け入れ、5万件以上の貸館業務の受け付けや750件を超える自主事業を企画・実施してまいりました。この間培った人的ネットワークは全国に及びます。これらの経験と実績を本記念館の管理運営に活かしていきたいと考えます。

自主事業計画書（8年度）

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
村田清風をとりまく人々	村田清風ゆかりの郷土の人物に焦点を当てて紹介、展示する企画展	4-9月

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
清風競書大会	村田清風や周布政之助の遺風を書を通じて現代に生かす取組。児童・生徒対象。	8月・年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
古文書講座	村田清風や周布政之助の遺風を当時の文書類を通じて学ぶ機会を提供する取組。一般対象。	2月・年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
清風サロン	記念館に隣接する史跡・村田清風旧宅を活用し、参加者が歴史の息吹を肌で感じ、清風の思想や功績について語り合う場を提供する。	毎月・年12回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
情報発信事業	・インターネット・SNSを利用した広報	随時

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
調査研究・収集事業	収蔵資料の整理とデータベース化。「清風を取り巻く人々」に関する調査研究と資料収集。	通年